



寢江代九送
 世 世
 覺鴻主戸_五弟

は本池人よんし
 ふあまい此眼
 守る事也
 梅子法を印
 上子法印

特別
 千12
 3643
 12(5)





門 子12
號 3499
卷 5

夜覺



君乃勅... 主おはく... 其曾の部... あり... 壽命...
君乃勅... 主おはく... 其曾の部... あり... 壽命...
君乃勅... 主おはく... 其曾の部... あり... 壽命...

夜覺六



故 梅若誠太郎氏
昭和四年五月十七日
梅若重戸氏
寄贈

石もよせ給ひあはれしくまはるの宮

香と薫く唯し修徳國福美りま

とさうの思ひきつらまもあま

の神くまひてぬる命もあま

山さきく行へ福なりと縁衣来

曾の之坂もゆけやうあま

あまのそと福美のあはれきり

ニハコヨ
くまひてぬる命もあま

床よ付くいしあまを彼指ときつね

きりきり
修徳路やま曾美そ

坂乃春乃まけりあまのたぐら

あまのあたる谷の戸はあまの

あまのあたる谷の戸はあまの

あまのあたる谷の戸はあまの

後

上
立タテのタテりリのノ木キ曾ソのノ麻アサ衣イ袖スエちチりリのノ袂タビも
賸ヒラがガ家イヘ名ナりリ目メごゴあアれレのノ路チのチ檜ヒノも
るル物モノくクそソぐグくクきキあアらラちチのノ鮮アヲらラ
落オチらラぬヌ谷ヤりリのノ木キもモ松マツ竹タケやヤほホらラふフ
知チらラくク何ナニ事コトにニいイはハしシてテはハらラふフ
しシまマらラふフかカらラなナれレはハいイらラしシてテはハらラふフ
何ナニ事コトにニいイはハしシてテはハらラふフ

到トちチおオのノ事コトありリ都ミヤコろロ一ヒトにニはハらラふフ
わワらラぬヌかカらラなナれレはハいイらラしシてテはハらラふフ
岳タケのノ木キもモ松マツ竹タケやヤほホらラふフ
よヨらラぬヌかカらラなナれレはハいイらラしシてテはハらラふフ
薬クシとトいイふフ由ユ君キミ治チらラなナりリをヲ給タマはハらラふフ
らラしシまマらラふフのノ宣ノリ旨シなりリわワらラぬヌかカらラなナれレはハいイらラしシてテはハらラふフ
未ミだダりリはハ老オウ翁ウがガ私シ電デンとト書シくクらラふフ

相ハ勅使ありてあるがや意有程やと想ては

忍びつみ指さるるはあつたあつたあつた

大いなるついでに其儘うしつゝの松にぬ

と創りしはあつたあつたあつたあつた

よきあつたあつたあつたあつたあつた

黙りておのれはあつたあつたあつたあつた

いふはあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

ひく観合入孫のまらまら
あつるよりのんるみ老氣いげま
しお可もなへあめりうゝ思
やあ〜れおと孫受り有よま
後ち中よあ命めぐたいんを
服二度りやとゆよあまらう
志翁とあけきう。あ時あやう

まのちちちちちちちちちち
雲の上よいまらまへ豪傑めま
うまのまうて悪魔とまらう
我よりあれの威がとあう人君
代をたにわけあ思よき物はよ
まのむ物使あ校のまを形
みとの後へま今ま行まらま

後

中

龍神も亦西よ形のけりまきりさるま
たふれ岩ふまのきつおもさるくと
月あま室奈夜もちりくともめりの
うらたふの移えふらめよら

舟

江野嶋

他リ物出テ

治まの折を江の海やくろごか
國そ久しう 甲府 松島は鉄州天皇
はへしお下也 相換乃お
とふ海よ去めり 卯月十日あまりお
不思議な奇塔様あつて海よに
乃鴻涌出ん 則江野お名ぞへて

まかひん

ツヨク

江野嶋

湖海

東河江の鳴と号す。鳴の正雲上の天
 女頭事と号す。是れ并々天影向の地と号す
 福壽島満の靈地と号す。是れ正雲上の天
 せしよの勅子任せて只今東海道下
 向はぬ。あはれま路をさす。是れ正雲上の天
 行雲のく歌を涼ま。あはれうみ
 ちれま。是れ正雲上の天。富子の高

チ切高砂の依

チ切高砂の依

根の月影をく。山をけり。相
 横のほろ。是れ正雲上の天。相
 是れ正雲上の天。是れ正雲上の天。相換の曲は
 鳴おとす。浦の者とおかす。は
 由も。是れ正雲上の天。鳴津島
 づ。涼。是れ正雲上の天。は
 づ。涼。是れ正雲上の天。は

天... 御身... 沖津... 史... 海...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...

海山... 御身... 沖津... 史... 海...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...
 あり... あり... あり... あり...

海山

皇十二年卯月十二日戌の刻より

同廿二日辰の刻より至まじくは野南海

湖水濤れお雲を覆くくはほしく

天多しうしたり大地震動より

十日にあまゆりごりりりて天女

よたけりし音もたはし侍り後より

天龍神水火雷電山神鬼魅夜

双羅刹雲より磐石を下し海

より塊砂をうね出の

うねりたれりせりて天れあり

おこりし

波浪金をとりぬし

あけりかめ出り夜双鬼神鳴を

本銅をよを物と打たれ

各弦神より取らるるにさるるの口を

明神の天部と支那の神より取らるる

海原の音は使あらるるにさるるあり

実有神やかりりり深き恵みは海山

色は萬葉をとりあはるる 聲は松吹

の音は 涼き老尾より取らるる たい

まは國の志ありとるるを たいとるる

此の神より取らるるの神ときあはるるを

まづくして入るる行はるるは海のちりり

つらみ量億のたよりとるるはたけ

作らるる久しとるる善神の福をとり

天部の神より取らるるの神より取らるる

女の志より取らるるの神より取らるる

一

六

て目もなす細柄と有べし

諸人へ余れまふ

鳴とらぬ

高き

とつ

のゆ

ひき

る

落

と

て

あ

伊

武

委正 一 波 崩
月を照らす 宝珠のきらりと 花の
あざやかな 心ゆく
あやふの 今 此君のまね 所影よあひ
にあら 下和がまゝし ありては ぬれぬ意
宝珠を君よりきしと ぎらりも せりし
殿乃戸ひは 長よ 閑もて 十五喜 皇お天
のまは ありて あり 青 庭生 海なるを
天女 今 此君のまね 所影よあひ
にあら 下和がまゝし ありては ぬれぬ意
宝珠を君よりきしと ぎらりも せりし
殿乃戸ひは 長よ 閑もて 十五喜 皇お天
のまは ありて あり 青 庭生 海なるを

河方便くも ち福寺 圓海の 花の
現寺は 比樂後 生る ありて 曇る
宝珠を 君より せりし ありて 曇る
花の 照らす 宝珠の きらりと 花の
あややかな 心ゆく
あやふの 今 此君のまね 所影よあひ
にあら 下和がまゝし ありては ぬれぬ意
宝珠を君よりきしと ぎらりも せりし
殿乃戸ひは 長よ 閑もて 十五喜 皇お天
のまは ありて あり 青 庭生 海なるを

天部トモの童トモ河伴カハナの雲クモのノ人ヒトあアるルをヲ
勢セのノ明ミ神カミをヲあアらラせセるル業ノをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ

代主

榮ツヨクのノ産ウちマでテ秋津アキツ洲シマのノあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
あアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ

都賀ツカガ者ノのノ神カミよリつク人ノ神カミのノ
ものノ也ナリまタ和ニ別ニ葛城カキのノ明ミ神カミのノ當ノ
社ヤシ一ニ群ニのノ事コトあアらラせセるルをヲあアらラせセるルをヲ
消ケすル作スはハ只シ今イマ和ニ別ニ葛城カキにニ

神のまほはりの
道の 道行の
 雲をまほはりの
 見ゆけのあまも
 山乃まほはりの
 もとまほはりの
 にまほはりの
 神の時波もまほはりの

ねまほはりの
 里まほはりの
 葛城やまほはりの
 者也省まほはりの
 賀茂のまほはりの
 よまほはりの
 だまほはりの

多岐の川に流るる水は
 道もみちもなほ
 昔の如くも高城の雲
 余の心ももろくも
 沖の波もはりて
 海もはりて
 氏も豊れど
 吏君の舟は水も
 舟は水も

長く君とあはれ
 王城は守りて
 山は海が
 流るる水は
 昔の如くも
 沖の波も
 海もはりて
 氏も豊れど
 吏君の舟は水も
 舟は水も

海女ウミメのしらシラきキ末マたるタルくクとトもモりリちチがガく
 旗ハタのノ夜ヨきキ日ヒもモくクるル生ナマ野ノのノ道ミチのノ程ハジメ
 ちチとトまマがガまマじジあアらラらラぬヌ橋ハシ立タテやヤもモ
 九ク世セのノ戸ドはハ急ツキにニ多タりリくク日ヒとト言イハらスく
 急ツキのノ程ハジメよヨ見ミはハとトもモ九ク世セのノ戸ドはハ急ツキにニ
 都トらラくク家イをエ入イてテ人ヒトらラのノ天アマ野ノ橋ハシ立タテも
 海ウミくクとト城シロはハめメ成ナリ泳ユキめメうウくクがガ勢セよヨ

かカらラあアらラとトなナいイ浦ウラ風カゼもモまマじジとト我ワ
 へヘてテまマじジとトもモ浪ナミ海ウミもモうウらラまマあアらラまマ
 海ウミ去クらラのノあアらラまマいイとトこコあアらラまマ泳ユキめメ勢セ
 らラ勢セよヨ可カらラうウ果ミらラぬヌやヤもモよヨまマ
 のノ海ウミのノあアらラまマのノ橋ハシ立タテ遠トホくクとト勢セよヨ
 道ミチはハ行イくク人ヒトもモなナらラなナらラ後ノチあアらラのノ時トキをヲ
 へヘてテ是コノらラのノ月ツキのノ半ナハ行イ舟フネのノ海ウミにニ

隙とありい貴婦群集そ有程き
 世海るもいもいさや少とて
 神乃代名昔焼と思出の
 月日曇るぬ天津神地神
 代とうぞ人許らく安九世入戸の
 大聖文殊と初信の
 成法のととも大

ありあく照も想いひもあつやく
 名よ是成せ人よ尋へまかりの
 何りを尋ひぞ
 うの始てしま箱のちと先河所と九世の
 戸とし名付地と習と安く流るる
 我本物に漁人あきべいりらう所
 へうい去あづる先九世の戸とし名付

素と天神七代地祇二代の神
 天降るに定めて天竺五口堂山入文
 獲と初詣し人の天乃七代地乃二代
 と是九世の戸と名付し
 善薩のけうきにも是帝釈の
 こととや其後竜宮よ入るは
 とを成りし程もあはれ洲橋よを

則師子の海より今絶えぬ
 龍神の燈を指し天
 里天人あまの天の燈音神
 の内妙計ねが枝よ光をあはれ
 の時即ち有り程りりお時
 節に神代乃昔より今よ
 絶えぬ洲橋よを

神ありの我る有程に申く乃事
 以てはとよ出らぬ月を日雲のあり
 天乃橋立をえらむく部者人を浦
 人り神目巴思するまて四方の縁水
 毛面白や松風も言志きく立ちる浪も
 白魚の月まよあはるるも後ひれ
 史地神二代の神始て定て天降り

末世の我生所後乃為よびるこころを
 初結志ありり所を神地かひり
 乃しうもや神國とありりひりき
 きう者まつり志れく乃我生海方
 乃方便志ありり所を神地かひり
 三世くも乃大智支殊を神地かひり
 乃ら志ありり所を神地かひり

し、物、信、ありし、是、法、の、神、の、代、い、ま、
を、う、ら、む、云、々、の、虚、空、よ、ら、ら、く、て
と、ま、か、ら、う、か、し、ら、る、各、し、ん、火、を
や、も、て、日、あ、ま、去、と、ま、さ、び、て、月
と、く、松、を、う、へ、ま、ま、ま、の、火、の、あ
ま、り、を、か、し、ら、る、環、の、あ、ま、り、
火、置、の、傍、と、ま、さ、る、故、あ、る、神、有、こ

神、く、あ、り、て、天、坐、五、皇、宮、の、
文、珠、と、初、請、し、ま、り、か、ら、う、ら、ま、る、雲、
と、わ、ま、さ、る、下、界、の、竜、神、と、も、樂、
種、く、の、た、ぬ、の、清、妙、を、指、し、ま、る、の、
初、向、乃、有、根、跡、を、も、つ、ゆ、か、り、
實、有、程、の、神、の、代、表、が、く、首、が、り、
ま、し、れ、世、の、孫、の、こ、も、く、ま、り、あ

子。河。影。を。松。の。本。陰。の。影。の。影。
の。空。も。更。行。浦。月。の。影。と。志。の。影。
侍。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。
や。柳。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。
と。名。業。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。
よ。我。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。
は。前。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。

信。心。清。淨。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。
い。ま。も。ら。く。て。長。安。松。の。本。陰。の。影。
き。り。く。久。樂。の。雲。井。の。影。の。影。の。影。
天。津。之。宮。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。
は。天。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。
ら。け。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。
ゆ。あ。の。影。の。影。の。影。の。影。の。影。

ク 杉雲遠き山城を井戸下にも末の
流もじりなまら坂や杉田を地はは
り
梅田河が織り
青月色づく秋のこども湯
時めきとみりたとまらる氣色那
當法たつ田ま里に住てひり地者行るがな
始まらぬ若らり津市ははまらりな

は杉田の津垣や宮路と通ひはは
そのひ頼むを漬す恵法代を
はは長月母日わまりの葉もいづるふ只園
は夜まみりになりと
きやらるる杉田の川を
いづち濁れも欄を磨くゆる津
すくはるるおまははまらり

久く昔はしき海ぬ海まうらうらうとまきまき
 手向まきまきまきまきまきまきまきまき
 ほどく昔はしき海ぬ海まうらうらうとまきまき
 てらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 の者らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 昔はしき海ぬ海まうらうらうとまきまき
 へてらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

あらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 昔はしき海ぬ海まうらうらうとまきまき
 へてらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 の者らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 昔はしき海ぬ海まうらうらうとまきまき
 へてらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

